

## 城崎国際アートセンターに 5G基地局設置

12月19日、世界中で活躍する日本人ダンスアーティストKento Moriyama（ケントモリヤマ）が市内の小学生にダンスを指導する「リアルダンスシヨップ」と、豊岡と東京・渋谷をau5Gで繋いだ「遠隔ライブシヨップ」を城崎国際アートセンターで開催しました。

参加した市内小学生14人は世界が認める表現方法をこの豊岡で直接学び、5Gの生中継で繋がった渋谷の子どもたちと距離の壁を越え同じ空間を共有しました。

5G基地局設置により、豊岡に居ながら、世界標準のアートに触れられる機会が増えることが期待されます。

《問合せ》大交流課 ☎21-9016



▲高速・大容量通信規格「5G」基地局の整備を記念して開催されました。

## 豊岡就活応援ブック発行

市内の企業情報などを掲載した「TOYOOKA WORK STYLE（豊岡就活応援BOOK2022）」を発行しました。今年はいくつかの内容とデザインを一新し、若者の多様な働き方として、「市内の企業で働く人」「起業した人」「豊岡と他の地域の2拠点で活躍している人」などを紹介しています。その他、市内のおすすめスポットや、企業との出会い・働き方を応援する内容となっております。各企業情報はウェブ上の電子ブックから閲覧することができます。

《問合せ》環境経済課 ☎21-9008



▲城崎マリンワールドで働く中尾さん(右)と市内でパーソナルジムを起業した荒木さん(左) 就活応援BOOKの一部



# 市政 ニュース

### ～主な市政の動き～

#### 【12月】

- 13日・HANDSIGN(ハンドサイン)Premium LIVE  
☎豊岡
- 16日・第3回豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略会議
- 19日・おんぶの祭典12月コンサート(・20日)
- 25日・第2期豊岡市地方創生総合戦略(第2版)策定  
・地方↓都市 豊岡と渋谷

#### 【1月】

- 4日・市役所仕事始め式
- 28日・STAY豊岡+(プラス)セッション  
・PLAY神鍋配布  
開始(・2月7日※ク  
ーポン利用は15日)



※掲載している情報は編集時点(1月14日)のもので、変更になっている場合がありますので、注意してください。

## 第3回ジェンダーギャップ解消 戦略会議を開催しました

本市では2018年度から、ジェンダーギャップ(社会的文化的男女格差)解消に取り組んでいます。本年度は、家庭、地域等を含めたまち全体を対象とした戦略を策定するため、市内経営者、地域関係者など多世代・多様な立場の方々に協力いただきました。

全3回にわたる会議では、高校生や若者の声、経営者の先進事例ヒアリング、ワークショップなどを通して、ジェンダーギャップが解消された場合とされなかった場合の本市のまちな姿を描き、あるべき姿を実現するための具体的な事業案を検討しました。

《問合せ》ワークイノベーション推進室  
☎21-9004



▲会議での多様な方々からの意見を参考に、2021年3月に戦略を策定します。2月中旬からパブリックコメントを予定しています。詳しくは市ホームページをご覧ください。

## 冬の雪山で、子どもたちに笑顔を

コロナ禍で頑張る子どもたちに、神鍋高原スキー場で利用できるアクティビティクーポン(一人2千円分)を贈りました。リフト券や用具レンタル、「雪のゆうえんち」や「キッズエリア」の入場券としても使えます。対象は市内の3歳以上中学生以下の子どもで、未就園児は大交流課または各振興局で配布しています。期間は3月14日(日)までです。詳しくは市のホームページをご覧ください。

久しぶりにたつぷりの雪が降りました。密を避けながら、冬の神鍋高原で遊び、ふるさと豊岡の魅力を再発見してください。

《問合せ》大交流課 ☎21-9016



▲PLAY神鍋のアクティビティクーポン(500円×4枚入り)

## 中貝市長の徒然日記 ㊦

### ジェンダーギャップ解消?

1月6日、朝日新聞2面に、豊岡が大きく紹介されました。同電子版には「反省を語る市長の挑戦」とあります。いったい豊岡の市長は何を反省しているのでしょうか? 反省だけなら、サルでもできます。

答えは、ジェンダーギャップに関する反省です。社会的文化的男女格差のことです。豊岡の人口減少の最大の要因は、若者の流出にあります。10代で豊岡を離れ、20代で帰ってくる若者は、男性52%に対し、女性は27%に過ぎません。「男余り」の状況です。

その理由は、豊岡があまりに男社会だから、と考えています。50代の平均年収は、男性480万円、女性251万円です。市長も経営者も、幹部職員も、ほとんど男性です。多くの女性たちは、補助的役割に甘んじてきました。

これから社会に出てバリバリ働こうという女性が、この状況を見て、豊岡に帰ろうと思うでしょうか? 女性だけ

が家事育児に明け暮れる姿も見てきたはずですよ。

かつてアイスランドで、9割の女性たちが一斉に休暇を取って仕事や家事を止め、通りに出て男女格差の是正を叫びました。保育所、学校、工場等は閉鎖。男たちは白旗を挙げ、格差は縮まりました。

そんな風に声高に訴えても、ええたら、事態は変わっていかもしれません。しかし、若い女性たちは、すーっと豊岡からいなくなったのです。「静かな反乱」です。

そのことに気づき、反省を口にしながら、ジェンダーギャップの解消こそが重要課題と突っ走る男性市長が、ジャーナリストの皆さんには、珍しいようです。ある本には、「市長が『ジェンダーギャップ』に目覚めた理由」と豊岡のことが書かれています。

担当職員からは、記事を見て面白がり、俄然やる気になって職務に熱が入っています。今年度、市役所の男性職員は、12人が育休をとりました。まだ間に合う。そう信じて取組みを進めてまいります。